心の広場

言葉の力

上柴中学校2年
浅川（あさかわ） 優紀（ゆき）

どうして彼はそこまでがんばり続けられるのでしょう？

彼というのは、体に障害を持っている男の子、新ちゃんのことです。中学校の人権週間で、「新ちゃんがないた」というビデオを見ました。新ちゃんは、体に障害があることで、まわりの子たちから非難されたり、からかわれたりしていました。しかし、新ちゃんはそんなことには負けず、がんばり続けて、みんなと和解することができたのです。みなさんだったらどうですか？私だったら、とてもショックを受けて落ちこんでしまうと思います。私は考えました。そして、気づいたのです。新ちゃんは温かい言葉に支えられていたのだと。もちろん、新ちゃんががんばり続けられた理由はそれだけではないと思います。でも、そのひとつに、まわりからかけられた温かい言葉があったからだと思います。友だちのつよしくんやお母さんからの「がんばれ」「大丈夫だよ」などの温かい言葉に、新ちゃんはとても救われていたのだと思います。

私は、自分をふり返り、反省しました。私も、人を傷つける言葉を使ってしまっていたからです。でも、その時は何とも思いませんでした。それは、私だけでなく、まわりの人たちもいっしょに使っていたからです。しかし、私たちに悪口を言われた人はどう思ったでしょう？きっと、言われた人は、新ちゃんと同じようにとても傷つき、悲しい気持ちになったと思います。だから私は、絶対に人を傷つける言葉を使わないようにしようと決意しました。

また、みなさんは、温かい言葉をかけられて、うれしくなったりがんばろうと思ったりしたことはありますか？私はあります。私は、小学校6年生のとき、児童会長になりました。児童のトップという責任感やたくさんの仕事があって、私はとても不安でした。そんなとき、児童会の仲間が、「大丈夫？手伝うよ」と声をかけてくれました。とてもうれしかったです。

私は、お母さんに、「言葉には、『言だま』といって、たましいがこもっているもの」なのだと聞きました。「楽しい」と言うととても楽しくなってきたり、「だるい、つかれた」と言っているとよけいだるくなってつかれたり…そんな経験はありませんか？これが言葉のパワーなのです。ですから、よい言葉を使えば使うほど、よいことがたくさん降ってくるということなのです。

私は、言葉に大きな力があることを知って、自分の発する言葉の力を考えながら、言葉を使おうと思いました。これからの生活で、人を傷つける言葉を使わないようにし、人を明るくしてくれる言葉をたくさん使うようにしたいです。そして、まわりの人たちにも同じように実行してもらいたいです。みんなでそれを実行し続けていけば、きっと明るい言葉であふれた、すてきな世の中になると信じています。

Letter ありがとうの手紙

優秀賞
小学校低学年の部

中学生になったしゅん作くんへ

大寄小学校２年　太幡（たばた） 亮介（りょうすけ） さん

1年生の時、つう学はんのはん長だったしゅん作くんは、お兄さんみたいに、いつもぼくを見まもってくれました。

ぼくが、じゅぎょう中にちゃんとべんきょうをしているか、心ぱいして見にきてくれたり、学校へおくれそうになると、にもつや、ランドセルまでもってくれました。うれしかったです。しゅん作くんのおかげで、ぼくは、りっぱな二年生になれました。ありがとうの気もちでいっぱいです。しゅん作くんのこと、ずっとわすれません。

うまうま 地元の旬を食べつくせ！ かんたん料理レシピ

「ねぎと手羽先の煮物」

材料（2～3人分）

深谷ねぎ1本、手羽先5本、サラダ油適量
【合わせ調味料】砂糖20g、みりん40cc、しょうゆ60cc、水少々

作り方

❶手羽先の両面を少しの油で、表面に軽く焼き目が付くまで焼く。
❷ねぎをぶつ切りにして、❶に入れる。
❸火が通ったら合わせ調味料を加え、弱火にして、ことこと5分くらい煮る。
❹ねぎに味が染みてきたら出来上がり。

夢なかるべからず

降矢（ふるや） 大輔（だいすけ） さん

理想の漫画を世に送れ

4人のチーム

小説の漫画化。原作の小説を漫画のために脚本し、それをもとに*コンテ（ネーム）を作る。そして絵を入れることで漫画が完成する。原作、脚本、コンテ構成、画をそれぞれ別の人間が担当する斬新なシステムの中で、コンテ構成を任された男がいる。

漫画家　降矢　大輔

チームの一翼を担うことで漸く漫画家の道を歩みだした。

＊脚本を元にページの割り振りや画の配置、人物の向きや背景など決める重要な役割

出版社の洗礼

漫画家になりたいという漠然とした気持ちを抱いたのは岡部中の時だ。人気作家の作品に感動し、自分で書いてみるようになった。中学、高校とコツコツ漫画を描きためた。

大学時代から出版社へ顔を出し、作品を持ち込んだ。何度も挑戦するが採用されないまま、気がつけば大学を卒業していた。

そんな生活を一変させる出来事が起きた。

「才能が無いかもしれない。」

出版社の担当者から痛烈な言葉を浴びた。平成16年の初春、経験したことのない強い挫折を味わった。

後に考えるとこの期間が幸いした。自分の漫画を突き放して見るようになった。客観的に自分の漫画を評価し、路線を変えた。不思議と肩の力が抜けた。

毎月31ページ作成するコンテ。コンテを元に完成した作品（右下）(C)片山憲太郎・山本ヤマト・子安秀明・降矢大輔／集英社

2か月ぶりに出版社を訪れ、新原稿を渡すと、担当者の目が輝き、顔が和らいだ。デビューしたのは、その年の秋である。

人気連載

その後、暫くしてコンテの話が来た。目指す漫画家像とは違ったが、担当者の依頼を受けた。これが当たった。月刊誌の創刊から連載となり、現在も人気を誇る看板作品だ。

だが、満足はしていない。いつか力を付けて自分の連載を持ちたい。自分が理想とする漫画を描いてみたい。

競争の激しい漫画界では、毎月何人も篩（ふるい）にかけられている。その厳しい世界に身を置き、今日も挑戦し続ける。

夢七訓
夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに　幸福を求める者は
夢なかるべからず※

〔本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています〕

※渋沢栄一が残したとされる「夢七訓（ゆめしちくん）」より。「夢なかるべからず」は「夢を持たないといけません」という意味。